

## (2) 運動場

本館前の一段下った位置に12,000㎡の運動場がある。

## (3) 自然遊歩道並びに観察コース

オリエンテーリング、フィールドワークや自然観察も可能なように、全山くまなく遊歩道を整備し、中丸山東南端に休憩所がある。

## (4) 体力づくりサーキットコース

持久力、巧み性、瞬発力、平衡性などを培う目的で、自然の家の起伏に富んだ敷地をフルに活用しての体力づくりコースが設定されている。コース内には、主な種目としてロープを使ったかけ登り、重量挙げ、竹棒登り、丸太渡りターザン遊びなどがある。

## 主なる備品

### (1) 体育的備品

#### ① 屋外

- ソフトボール用具一式
- 軟式野球用具一式
- サッカー用具一式
- バレーボール用具一式
- スノーボード(50台)

#### ② 屋内

- 卓球台(7台)
- 卓球用具(7セット)
- バスケット用具一式
- ポートボール用具一式
- バドミントン用具一式
- セーフティマット(2)
- 踏み切り板(2)
- 平均台

#### ③ 野営

- テント(6人用30張)
- 炊飯用具一式
- 寝具類

### (2) 学芸的備品

#### ① 視聴覚器材

- 16mm映写機
- ポータブルプレーヤー
- OHP
- ワイヤレスアンプ・マイクロフォン
- スクリーン(2台)
- テープレコーダー(2台)
- カセットレコーダー(2台)
- 4chステレオ
- スライド映写機
- 鑑賞用・レク用レコード
- ピアノ
- エレクトーン
- アコーディオン(2台)
- トランシーバー(3台)
- ハンドスピーカー(2台)
- ギター(2台)

#### ② その他

- 大工道具セット(7個)
- 図書多数

## 職員組織

職名	所長	次長	主事	社 会 教 育 事	指 導 主 事	主 技 任 保 健 師	用 兼 運 務 員 手	計
人員	1	1	2	1	3	1	1	10

## 第3節 利用状況

少年自然の家の利用は、①学校教育の一環として利用する場合 ②少年団体等社会教育関係団体が利用する場合 ③少

年団体指導者養成のため市町村教育委員会等が利用する場合 ④県並びに少年自然の家の主催事業に参加する場合等に大別される。

本年度の利用総人員は246団体(前年度は234団体)、研修実人員20,238人(前年度は19,312人)、延研修人員は50,734人(前年度は47,157人)であったが、その詳細な利用状況は次のとおりである。

### 1 学校が利用したもの

利用した学校、学年、研修人員並びに研修内容は表1のとおりである。

### 2 社会教育関係団体等が利用したもの

利用団体、研修人員並びに研修内容は表2のとおりである。

### 3 少年団体指導者養成のために利用したもの

主催団体、研修内容、参加対象並びに研修人員は、表3のとおりである。

### 4 少年自然の家の主催事業

#### (1) 御霊櫃峠つつじめぐり

##### ① 目的

御霊櫃峠一帯のつつじを鑑賞し、自然の恩恵にふれさせ、登山を通じて健康増進と、親と子の心の交流を図る。

##### ② 期日、会場、参加者数

ア 期日 昭和50年6月21日～22日 1泊2日

イ 会場 福島県少年自然の家

ウ 参加者 親子または地域のグループ(家族単位で参加) 参加者 89名

##### ③ 研修内容

○御霊櫃峠登山 ○キャンプファイヤー

#### (2) 親子キャンプ登山のつどい

##### ① 目的

キャンプ及び登山を通じ、大自然に親しみながら、親子の心の交流と、参加者相互の親睦、健康の増進を図る。

##### ② 期日、会場、参加者数

ア 期日 昭和50年8月1日～3日 2泊3日

イ 会場 福島県少年自然の家

ウ 参加者 親子または地域のグループ(原則として子供5人に成人1人の6人グループ編成)単位で参加。参加者 135名

##### ③ 研修内容

○御霊峠登山 ○キャンプファイヤー

○野営訓練 ○炊飯コンクール

○ハイキング ○レクリエーション、交歓会

#### (3) 親子レクリエーションのつどい

##### ① 目的

親子での共同宿泊生活を通じ、福島県少年自然の家周辺の紅葉を鑑賞しながら、野外レクリエーションなどに楽しいひとときを送って、親子の交流をふかめることに